

勸持品十三箇の大事

第一 勸持かんじの事

御義口伝に云はく、勸とは化他、持とは自行なり。南無妙法蓮華經は自行化他わたに亘るなり。今日蓮等の類たぐい南無妙法蓮華經すずを勧めて持たしむるなり。

第二 不ふ惜しゃく身しん命みょうの事

御義口伝に云はく、身とは色法、命とは心法なり。事理の不これ惜身命之有り。法華の行者田畠等を奪はるゝは理の不これ惜身命なり。命根を断たるゝを事の不これ惜身命と云ふなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は事理とも共に値ふなり。

第三 心しん不ぶ実じつ故この事

御義口伝に云はく、心不実故とは、法華最第一の經文を第三と読み、最さい為い其こ上じょうの經文を最さい為い其こ下と読み、法華經の一念三千を華嚴大日等にこれ之有り、法華の即身成仏を大日經に取り入るゝ、此等は皆心不実故なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は心実なるべし云云。

第四 敬きやう順じゆん仏ぶつ意いちの事

御義口伝に云はく、法華經に順ずるは敬順仏意なり。意とは南無妙法蓮華經是なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは敬順仏意の意なり。

第五 作さし師し子しく吼くの事

御義口伝に云はく、師子吼とは仏の説法なり。説法とは法華、別しては南無妙法蓮華經なり。師とは師匠授くる処の妙法、子とは弟子受くる処の妙法、吼とは師弟共に唱ふる所の音声なり。作とはをこすと読むなり、末法にして南無妙法蓮華經おこを作すなり。

第六 如にょ法ほう修しゆ行ぎやうの事

御義口伝に云はく、如法修行の人とは天台・妙楽・伝教等なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは如法修行なり。

第七 有う諸しよ無む智ち人にんの事

御義口伝に云はく、一文不通の大俗なり。悪口罵詈めり等分明なり。日本国の俗を諸と云ふなり。

第八 惡あく世せ中ちゆう比ひ丘くの事

御義口伝に云はく、惡世中比丘の惡世とは末法なり、比丘とは謗法こうぼうたる弘法等是なり。

法華の正智を捨て権教の邪智を本とせり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は正智の中の大正智なり。

第九 或有阿練若の事 わくう あれんにゃ

御義口伝に云はく、第三の比丘なり、良觀等なり、如六通羅漢の人と思ふなり。

第十 自作此經典の事 じ さ し きょうでん

御義口伝に云はく、法華經を所作して読むと謗ずべしと云ふ經文なり云云。

第十一 為斯所輕言 汝等皆是仏の事 い し しよきょうごん にようかい ぜ ぶつ

御義口伝に云はく、法華經の行者を蔑み生き仏と云ふべしと云ふ經文なり。是は輕心を以て謗するなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者を云ふべきなり。

第十二 悪鬼入其身の事 あく き にゅう ごしん

御義口伝に云はく、悪鬼とは法然・弘法等是なり。入其身とは国王大臣万民等の事なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者を怨むべしと云ふ事なり。鬼とは命を奪ふ者にして奪功德者と云ふなり。法華經は三世諸仏の命根なり。此の經は一切諸菩薩の功德を納めたる御經なり。

第十三 但惜無上道の事 たんじゃく む じょうどう

御義口伝に云はく、無上道とは南無妙法蓮華經是なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經を惜しむ事は命根よりも惜しき事なり。之に依って結ぶ處を仏自知我心と説かれたり。法華經の行者の心中をば教主釈尊御存知有るべきなり。仏とは釈尊、我心とは今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者なり。